



豊中市教育センター
〒560-0033 豊中市蛸池中町 3-2-1-600
TEL 06-6844-5290
FAX 06-6840-8127

平成16年(2004年)7月14日 第8号

なるほど学校ホームページ

ホームページの要はなんといっても日々の運営管理にあります。しかし、ある調査によると、年間300日以上更新する学校がある一方、年に1回の更新ですら覚束ない学校が全体の約3割を占めているとのことです。見る側が求めている情報を何とか発信したいという願いと作成する負担はなるべく軽減したいとの考えは、往々にして相反するものになりがちです。

この悩みの解決のひとつの方法を J-KIDS 大賞受賞校のホームページから学ぶこととしましょう (<http://www.j-kids.org/>)

三重県津市立南立誠小学校では、教師が作成するページは定型化し、「学校ホームページマニュアル」に従って進めていけば操作やレイアウトにあまり迷うことなく作成できるようになっています。また、子どもたちのホームページづくりでは、大学の先生や学生をスクールサポーターとして招き協力を得ています。

枚方市立田口山小学校では、学校行事や学習活動の過程、花壇に咲く花々等、日々の教育活動の中に何気ない1コマを、デジタルカメラで撮影し、一言添えて、トップページに毎日掲載しています。1枚の写真だけですから、手間もあまりかからず、毎日更新していると、必ず保護者の方がホームページにアクセスしてくれるようになります。保護者の方々が見たい情報は「子どもたちが、学校でどんな生活をしているか」ではないでしょうか? その様子を、1枚の写真を通じて発信していくのです。

普段着の学校の様子を伝えるとともに、応援して下さる方々との対話の輪を広げていく第一歩として「学校は、こんなに元気ががんばってるぞ!」という声を届けませんか?



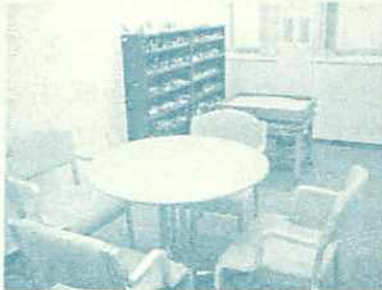
(酒井 昭博)

教育センター7階

教育相談フロアより

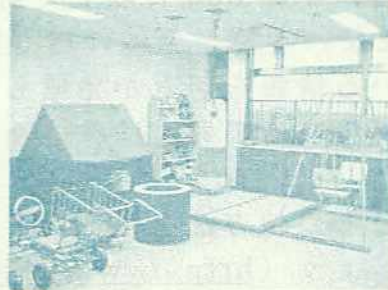


エレベータで7階に上がっていただくと、受付があります。



相談室 (9室)

主に、保護者との面接に使っています。



プレイルーム (5室)

主に、子どもが遊びを通して、自分の気持ちを表現するところです。



言語相談室 (2室)

遊び等を通して、楽しみながら言葉のやりとりを育んでいきます。

教育相談案内

教育センターの7階は、教育相談のフロアとなっています。3歳半から中学生の子どもに関することで相談を受けています。本人および保護者の方を対象とし、来所による相談、カウンセリング・プレイセラピー等を行っています。

どんな内容?

子どもの性格・情緒・行動など

ことば(構音障害・吃音等)など

不登校・親子関係などの心理的・発達的な問題 など

*ことばの相談は、主に就学前の子どもを対象にしています。

いつ?

月曜日～金曜日の午前9時～午後5時(祝日、年末年始の休日は除く)

- * 保護者の希望、必要に応じて、学校園の先生方とのカンファレンスなども行っています。
- * 現在予約が込み合っているため、予約の電話をいただいてから初回面接まで約2ヶ月間お待ちいただいています。
- * 昨年度は、延総数7028回の相談がありました。

<相談の流れ>

予約

保護者・本人による申し込み
(専用電話) 6844-5231

初回相談

木曜日 13:00 or 14:30

保護者との面接

本人との面談

見立て

本人・保護者へのフィードバック

今後について

*必要に応じて関係機関の紹介
も行います。

継続相談

個別・親子並行面接 50分

毎週・隔週が中心

プレイセラピー・カウンセリング

言語相談など

相談の終了

教育相談研修 (5月18日に行われました)

講演 「カウンセリングと初心について」

講師 奈良女子大学 森岡 正芳 教授

教育相談研修は、年に2回実施しています。1回目の研修は、市民の方にも参加していただけるよう、公開講座としています。当日は35名の方の参加がありました。

【講演内容の一部】

家庭教育アンケートで、「子育てで困っていること」の質問に対して多かった回答は、「学校で友達とうまくやっているかどうか」や「子どもの将来」でした。今の子どもの生活ではなく、今でない場面について、不安や負担を感じているという例です。

三角関係化 (トライアンキュレーション)

自分と子どもの間に、第3者の言葉やイメージ(X)をかりて話をする(歪んだコミュニケーション)。不確かなもの(X)に惑わされ、子どもに不安を与えている現状があります。

- ①「こんなことしていたら、友だちに嫌われるよ。」
→嫌われたらどうしよう(不安)→私はよくない子。
- ②「そんなことじゃ、学校へ行ったらたいへんだよ。」
→学校ってたいへんなんだ。(不安)→私はダメな子。

まず、2者間で、自分はどう思うのか、子どもを受け止めて話したり聴いたり、自己受容できるようなコミュニケーションを心がけることが大切です。

— 教育相談研修 (2回目) の案内 —

講演 「人間関係の理解と自己モニタリング
—自己理解から始める他者理解—」

講師 大阪教育大学 安福 純子 教授

日時 7月27日(火) 10:00 ~ 12:00

—市民ですがこれからの家庭や近所の方との付き合いに参考になりました。子どもたち、夫、親との関わりと自分を見直す機会になりました。わかりやすい話で、教育関係者ではないけどよかったです。(受講者の感想)

人間関係づくりや集団での活動がうまくできない子どもへの対応に困っていませんか? =研修会の参加をお待ちしています。=

こころの土台

幼稚園の年少組のA子ちゃんは少し手先が不器用で、なかなか自分で靴を履くことができません。頑張ってはみるのですがうまく履くことができず、園庭に出る時、お帰りの時、振り返って必ず先生やお母さんの姿を探します。次々自分で履いて元気よく駆け出すお友だちを羨ましく見ながら、その顔は不安でいっぱいです。その気持ちを受け止めつつ、先生は「指をここに入れて履いてみようか。」と根気良く声をかけながら手伝います。

ある日、偶然という感じでA子ちゃんは自分で靴を履くことができました。横で見ていた先生は大喜びで「A子ちゃんすごい！自分で履けたね！」と声をあげました。先生の喜びの声を聞いてA子ちゃんはもっと嬉しくなりました。嬉しくて、誇らしくてお母さんにも園長先生にも報告に行きました。それからは、褒めてもらえるのが嬉しくてA子ちゃんは靴の着脱に積極的に取り組み、上達していきました。

ここでのA子ちゃんは先生に見守ってもらっているなかで、靴を履けないことの不安や戸惑いを受け止めてもらい、喜びも分かち合ってもらっていたのです。子どもは困った時に大人を振り返りますが、それまでできなかったことができた時も必ず振り返ります。そして見守ってくれている大人と喜びを分かち合うことで、相手への信頼と共に自分への信頼を育てているのです。



人間の一生を家づくりに例えると、乳幼児期は基礎工事の時期であり、少年期、青年期はその上に造っていく建物であると例えた人がいます。壁がどんな色で塗られているのか、玄関がどう造られているのかは周りから見てもよくわかるのですが、基礎工事の部分は建物が建つと何も見えなくなってしまいます。しかし、地震などの災害が起こったとき、瓦の取り替えや色の塗り直しはできても、基礎工事がずさんだと修復不可能という事態になりかねません。家も人間も基礎の部分が非常に大事なのだと思います。その基礎工事の時期に、大好きな大人にそのままの自分を受け入れてもらい、不安な気持ちだけでなく喜びも分かち合ってもらえた経験が相手と自分への信頼感を育てます。その土台をもとに相手を思いやる気持ち、豊かな共感性が育っていくのではないのでしょうか。子どもが素敵な家を作ることができるよう、見守っていききたいものです。

(廣瀬)